

平成25年12月27日発行

ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第40号

平成24年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.40 2012*



福岡県保健環境研究所

はじめに

平成24年度の福岡県保健環境研究所年報を作成いたしましたので、お届けします。

ご一読いただき、ご意見をいただければ幸いです。

研究所の近況をご報告させていただきます。

保健分野では、地域医療再生基金を活用して機器整備を行い、結核菌の分子疫学的な試験研究を開始しました。県内や近県の結核診療医療機関の協力を得て菌株を収集し、VNTR（反復配列多型分析）による遺伝子解析を実施しています。

平成25年春には、中国でインフルエンザH7N9の感染拡大がみられ、私ども研究所も県内での患者発生に備え検査体制を整えましたが、幸いにも日本国内での発生は見られませんでした。他にも中東呼吸器症候群（MERS）が発生拡大するとか、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が近県で報告されるなど、感染症の分野では気の抜けない状況が続いています。

環境分野では、PM_{2.5}が話題となりました。当研究所では、平成18年より国立環境研究所とともに地道に観測・研究を続けてきており、平成25年の観測結果も特に例年と異なるわけではありませんでした。しかし、北京を中心とした大気汚染の状況と日本への移流がマスコミで大きく報道された結果、一躍大きな問題となりました。そのため、担当者は測定活動に加え、マスコミの取材への対応や、講演会の講師を依頼されるなどして、大変多忙な年となりました。

原発事故関連では、平成24年度も研究員1名（のべ5名）を福島県原子力センターへ派遣しました。また、玄海原発の緊急事態への備えとして、福岡県も緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）に加わり保健環境研究所にも中継器が設置されました。

平成25年度は新規職員が3名採用され、前々年の1人、前年の4人を加えると30歳前後の若手研究者が急激に増加し、雰囲気が大きく変化しています。彼らが有する、大学での最先端の研究経験や、企業での実際的な研究経験が、新しい研究推進の原動力として一役買っています。

しかし、総体として職員数や研究費は厳しい状況が続いています。

県の財政状況が厳しい中、文部科学省の科学技術研究費など競争的研究費の獲得や、県内民間企業との共同研究などで研究活動を活発化させたいと考えています。おかげさまで、職員の努力により、毎年外部研究費を確保できるようになってきたことは非常に喜ばしく、今後のさらなる奮起を期待したいと思います。

以上、近況を報告させていただきました。

今後とも、研究所の充実に努めたいと考えておりますので、ご指導よろしく申し上げます。

平成25年12月

福岡県保健環境研究所長 平 田 輝 昭